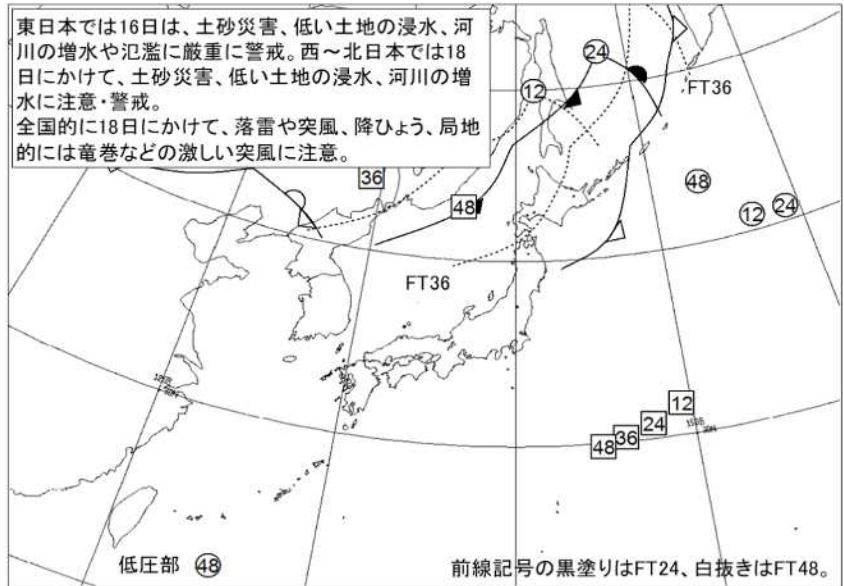


1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5940m以上の上空の高気圧が黄海付近にほとんど停滞。また、地上では太平洋高気圧が日本の東にほとんど停滞。高気圧の圏内で、全国的に晴れて気温が上がり、西～東日本では猛暑日の所がある。一方、西～東日本の太平洋側を中心に、大気の状態が非常に不安定となっており、非常に激しい雨や猛烈な雨を解析、雷を検知、メソサイクロンを検出。静岡県と埼玉県では16日昼過ぎに記録的短時間大雨情報を発表。
- ② 前線を伴う低気圧がアムール川下流付近を東進。



主要じょう乱解説図

- ③ ①の太平洋高気圧の南縁を回る下層暖湿気の影響で南西諸島周辺では、強い雨や激しい雨を解析。また、300hPa -33℃以下の寒気を伴う上空寒冷低気圧(UCL)が、日本の南を西進。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の上空の高気圧は、17日にかけて黄海付近にほとんど停滞し、18日は華中付近に中心を移しながら帯状に本州付近を覆う。太平洋高気圧は、18日にかけて日本の東から小笠原諸島近海に移動する。本州付近は高気圧に覆われ、晴れて気温が上昇し猛暑日となる所がある。18日にかけて、熱中症などの健康管理に注意（熱中症警戒アラート参照）。また、日中の昇温や高気圧縁辺を回る下層暖湿気の影響で、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴う激しい雨や非常に激しい雨が降って大雨となる所がある。東日本では16日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に厳重に警戒。北日本では17日にかけて、東～西日本では18日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ② 1項②の低気圧は、17～18日はオホーツク海を北上して、寒冷前線が北日本を通過する。また、500hPa 5760m付近で-9℃以下の寒気を伴うトラフが北日本を通過する。前線に向かう下層暖湿気や上空寒気の影響で、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴う激しい雨や非常に激しい雨が降って大雨となる所がある。北日本では17～18日は、東日本では18日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ③ 1項③のUCLは、18日にかけて沖縄地方に進む。また、18日朝までに低圧部が沖縄の南で発生して北上する。上空寒気や2項①の高気圧の縁辺を回る下層暖湿気、及び低圧部周辺の下層暖湿気の影響で、南西諸島では18日にかけて、大気の状態が不安定となる。落雷や突風、急な強い雨に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(18時からの24時間)：東海120、北海道100mm。

- ② 波浪(明日まで)：高い所(3m以上)はない。
- ③ 高潮(明日まで)：西～北日本では注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。